

別記様式第2号

令和 6 年 11 月 8 日

行政視察報告書	(会派の場合) 会派の名称			
	代表者氏名			
	(会派以外の場合) 議員氏名		荒井直彦	
参加議員	土佐洋子 議員		伊東圭介 議員	
	笠原俊一 議員		待寺真司 議員	
	荒井直彦 議員		議員	
	議員		議員	
日 程	令和 6 年 10 月 17 日 (木) ～令和 6 年 10 月 19 日 (土)			
視 察 先	(1) 北海道上川郡新得町			
	(2) 北海道沙流郡日高町			
	(3) 北海道白老郡白老町			
視察目的 (項目)	(1) 手話言語条例制定の過程と取組みについて			
	(2) 町立日高高校の特色ある学校運営について			
	(3) (民族共生象徴空間) ウポポイについて *自主現地踏査			
【調査内容・概要】 (1) 北海道上川郡新得町 新得町は、北海道の中心部十勝総合振興局に位置し、「北海道の重心」と言われる人口5,314人(令和6年9月末現在)の町です。行政面積は当町の約6.3倍、1,063.83㎢と広大な面積ですが、その約8割が森林となっております。南北に長い形状で町の中心地から約60km離れた秘境にある「トムラウシ温泉」が有名です。農業も盛んですが特にそばの栽培が盛んで、ちょうど今年の新そばを食べることができる時期でした。また、明治新政府による北海道開拓が始まったのちの、125年前に、山形県東根市高崎地区から入植された人々により開墾されたそうです。 視察予定時刻よりも早めに着いたので、役場近くに広がるスポーツ施設の見学をいたしました。議会事務局の佐々木局長にご案内いただき、陸上競技場や人工芝のサッカー場や、少年サッカーでは4面も取れる天然芝のグラウンドや、冬季は休業となる温水プールなど説明を受けることができました。				



🐾 人工芝の感触を確かめています

🐾 温水プールの案内版・各種プール有り

ちなみに今回の視察目的である「手話言語条例」を制定した際の担当課長が佐々木局長で、当町に視察来町された際にそのお話を伺い、今回の訪問となりました。全国の町村で1番最初に制定したのが新得町で、制定に至る過程と制定後の行政の取り組みについて、ご教示いただきました。



🐾 温水プールの外観・冬季は休業です

🐾 陸上のトラックは6コースです

説明を受けました場所は「社会福祉法人 厚生協会」の地域交流スペースで、第7代理事長の田中雅之氏からも法人の事業内容や設立経緯など詳細な説明をいただき、その後、施設長であるご子息に聴覚障害者養護老人ホーム「やすらぎ荘」の施設や、社会就労センター「セルプ」の作業場など案内をしていただき、聴覚障害を持った方々専用の養護老人ホームの特徴など懇切丁寧な説明を受けるとともに、作業場で働いている皆様とも交流することができました。

★令和5年10月に新得町議会が議会改革で葉山町議会を視察にいらっしやったときに、新得町が手話のまちであることを知りました。議会事務局長が福祉課にいたときに手話言語条例を制定されました。面積は葉山町の63倍ですが、人口は6分の1程度です。手話に誇りを持って聞こえない者も、聞こえるものも共に支え合う社会を目指しています。手話のまちにて、有志議員団を代表して、おこがましくも手話でご挨拶させていただきました。



👤 手話で挨拶する土佐議員



👤 点滅して危険を知らせる表示板

セルフ施設（セルフとは：セルフ（S E R P）は英語のSelf-Help（セルフ・ヘルプ＝自助自立）からの造語で、この言葉には「利用者が自立をめざして働くことに挑戦する」という願いが込められているそうです）には50人ほどの聴覚障がいを持つ方が生活していて、お仕事もされている。新得町など北海道の木材を使っている木工作業。施設の職員もろう者なので、宿直室にはサイレンとフラッシュするランプ、また就寝中だと気が付かないので扇風機が回るようになっている。フロアカーリングは新得町発祥の地で、もちろんこちらの施設で作成しています。

【手話言語条例を制定してから4つの柱】

・手話ポスター全戸配布

新得町で使われている手話を集めポスターを作成

・手話を取り入れた教育

さまざまな教育の場で手話を取り入れている

・役場としての取り組み

役場では朝礼及び終礼時に手話を取り入れている
ろう者の方が気軽に来庁することのできる役場づくりを
目指して少しでも手話を使えるよう努力している。

・町民向け手話講座

新得手話の会による手話講座が開かれている。
手話の出前講座を始め、依頼があれば職場や団体に講師を派遣し、
それぞれの場に必要の手話を学ぶことができる。

2025年11月には日本で初めて「東京2025デフリンピック」が開催されます。デフリンピックとは、デフ+オリンピックのこと。デフ（Deaf）とは、英語で「耳がきこえない」という意味です。デフリンピックは国際的な「きこえない、きこえにくい人のためのオリンピック」なのです。国際ろう者スポーツ委員会（ICSD）が主催し、4年毎に開催されるデフアスリートを対象とした国際総合スポーツ競技大会です。

第1回は、1924年にフランスのパリで開催され、東京2025デフリンピックは、100周年の記念すべき大会であります。東京2025デフリンピックに葉山町出身の選手が出場する可能性もあります。ぜひ町を挙げて応援するためにも、2025年までに葉山町手話言語条例制定を目指していきたいです。

記 土佐 洋子

★令和5年に葉山町に来られた佐々木新得町議会事務局長の案内で町営温水プール、サッカーや陸上競技などの運動施設を見学。ただただ広大な施設に我々全員が葉山に持って帰りたいと羨望の声。

その後聴覚障害者施設内、新得町の社会福祉法人、厚生協会法人本部での研修。先ず、長野新得町議長の挨拶があり、新得町は人口5,314人葉山町の約6分の1。面積1063.83㎢で葉山町の63倍との紹介が印象的でした。

次に田中厚生協会理事長から聴覚障がい者の社会参加や生活支援の今日までの経過など、差別的な処遇改善に取り組んだ祖父の始めた経緯など胸に響く話をされ、今では町民全体に波及し「手話の町」と称される今日までの活動を拝聴した。



📌 町から新生児へのプレゼント

📌 新得町役場新庁舎用の机を製作している

その後の施設見学で本部施設は、男女別個室のわかふじ寮、第2わかふじ寮、わかふじワークセンター、地域交流ホーム「ふじ」で構成されていること。広大な口の字型1フロアの近代的建物の各個室には、音声連絡ではなく聴覚障がい者用に回転灯が設置されている。ベンチの置かれた中庭、廊下を挟み左右の各部屋や共同風呂など、見学しながらの一周はかなり大変でした。

また、一旦外に出た隣接には本町の小学校校舎規模の2階建て木工作業棟があり、この2棟施設では施設入居者や通勤の聴覚障害の方々の働く様子を見学。木工細工のいすやテーブル、玩具などのクオリティーの高い製品を作成していた。

さらに、今回見学は出来なかったが、周りには厚生協会組織の日帰りサービスセンタ・パン工房・養護老人ホームひまわり荘・特別養護老人ホーム新得やすらぎ荘・聴覚障害者養護老人ホームやすらぎ荘・職員住宅などの多くの施設があり、新得駅周辺や市街地にも施設展開されているなど一つの町を構成している、あるいは関連施設の中に町があると思われる規模なのではないかと感じた。

記 笠原 俊一



📍 フロアカーリング用の投てき用品の製作現場と実際に使用される製品

★今回の視察は、全国町村で最初に手話言語条例を制定した新得町を視察調査しました。その取り組みの中心的役割を担っている社会福祉法人 厚生協会（わかふじ寮）を訪問しお話を伺い、施設を視察させていただきました。

新得町は、平成26年3月議会にて「手話に関する基本条例」を議決し、4月1日に施行しました。「ろう者と共に生きる」町づくりを進めるため、手話が言語であるとの認識に基づき、手話の理解と広がりをもって地域で支え合う住みよい町を目指し、条例を制定したとのことです。

新得町とろう者との関係は、まだ戦後の混乱期であった昭和28年にろう学校の生徒たちが卒業後も自立して安定した生活を送れるよう、聴覚障がい者の自立と職業訓練のために身体障害者授産所わかふじ寮が創設されたのが始まりです。以来、聴覚障がい者を中心とした福祉事業を町民と一体となって作り上げ、新得町が「福祉の町」「手話の町」といわれるようになったとのことです。

「手話」は、ろう者の日常生活にとって大切なコミュニケーション手段であり、手話を使い安心して暮らすことができる町づくりに向け、全力を挙げて取り組みを進めています。

町役場としての取り組みは、朝礼及び終礼時に手話を取り入れ、ろう者の方でも言葉を気にせず気軽に来庁することのできる役場づくりを目指して少しでも手話を使えるように職員も努力をしているとのことです。

学校教育の場においても様々な場面で手話を取り入れ、聴覚障がい者施設わかふじ寮などの施設訪問やイベントで手話の歌を披露するなど積極的に取り組んでいるそうです。その他にも手話推進委員を配置して、町民向け手話講座を開設し「手話に関する基本条例」の理念を推進するための事業を行っていました。

その後、わかふじ寮や木工作業棟や軽作業棟などの授産施設を案内していただきました。特に目を見張ったのが地場産の木材を使っての木工製品の質の高さでした。役場新庁舎に納入予定の机や棚などもすべて制作しているとのことです。

年間売上金額も2億円以上で就労者には、全国的に比べても高い給与を支払っているとのことです。社会福祉法人 厚生協会の理念や施設は、すべてにおいて優れていると思いました。

来年、2025年は、聴覚障がい者のスポーツの祭典「デフリンピック」が日本では初開催されます。これを契機に葉山町でも手話言語条例等の制定に向けた取り組みを進めていきたいと考えております。

*今回視察対応していただきました皆様です

社会福祉法人	厚生協会理事長	田中	雅之	氏
社会福祉法人	やすらぎ荘施設長	田中	透嗣	氏
新得町議会	議長	長野	章	氏
新得町議会	事務局長	佐々木	隼人	氏
新得町役場	保健福祉課長補佐	市川	栄樹	氏 他説明員 2 人



やすらぎ荘にて右から 3 番目が田中理事長、隣が長野議長、左端が佐々木局長

(2) 北海道沙流郡日高町

日高町は、平成の大合併の際に当初 5 町での合併協議を進めておりましたが、最終的には平取町（面積 7 4 3 . 0 9 ㎢・人口 4 4 8 3 人（令和 6 年 9 月現在））を挟んだかたちの飛び地合併となり、門別地区にある本庁舎と日高地区にある総合支所庁舎の間は、実に約 6 5 km も離れている全国的にも大変珍しい自治体です。

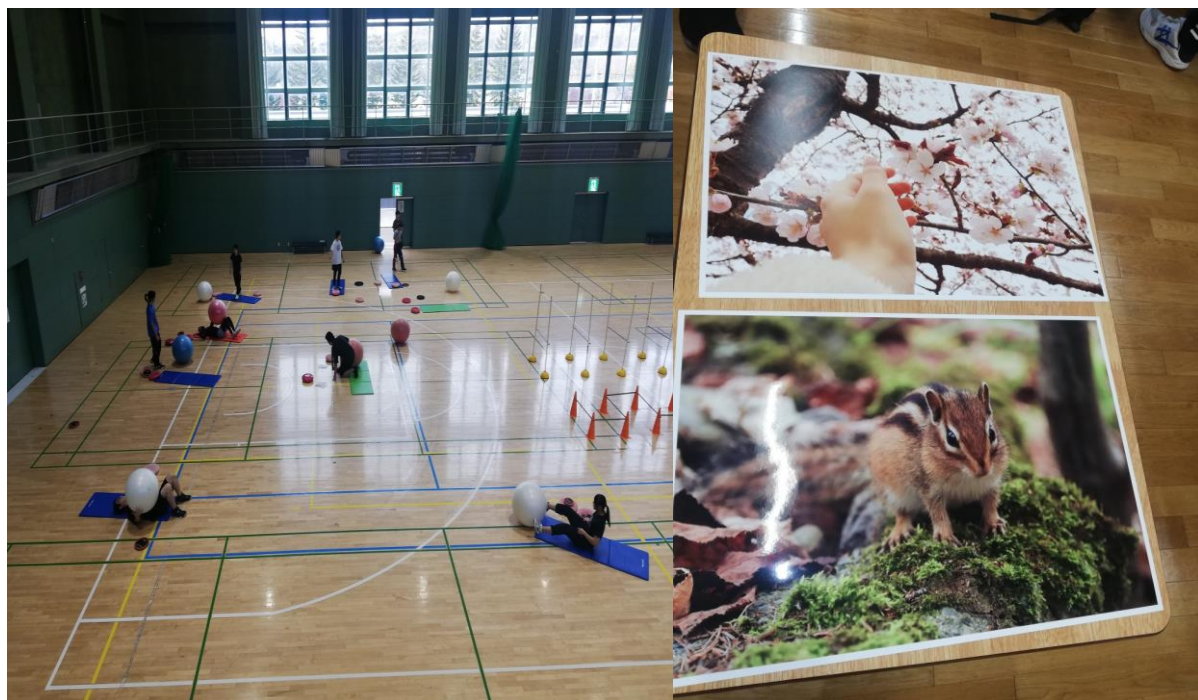
北海道日高振興局の西部に位置して、北東部には北海道の屋根と言われている日高山脈があり、周囲を大小の山々が囲んでおります。総面積は 9 9 2 . 0 7 ㎢となっており、門別地区は 4 2 8 . 4 2 ㎢、日高地区は 5 6 3 . 6 5 ㎢です。人口は令和 6 年 9 月現在 1 0 , 9 9 0 人で内日高地区には約 1 , 2 0 0 人が暮らしております。

太平洋に面した門別地区は積雪も少なく温暖な気候で、門別競馬場があることでも知られております。一方、日高地区は寒暖差が激しく、冬には積雪し、町営のスキー場を有しており、今回の視察目的である定時制の町立北海道日高高等学校があり、スキーコース・スキークラスの生徒たちの学びの場となっております。

観光パンフレットには門別地区をシーサイド、日高地区をマウンテンサイドと表記しており、日高昆布や本ししゃもをはじめ海の幸や、牛乳やバター・豚肉など山の恵みも豊富にあり、町を流れる清流沙流川にはオートキャンプ場もあり、レジャーにアクティビティも充実し、ヤマメやニジマスの養殖場もあり、食の宝庫でもあります。

視察目的である町立北海道日高高等学校の特色ある学校経営はテレビでも取り上げられて、放映後には問い合わせが殺到しているとのことでした。日高町教育委員会生涯学習課が所管する「日高町産業学習」と連携して、3年間で卒業できるユニークな夜間定時制高校です。昼間は日高の大自然を生かした体験学習で、夜間は高校で基礎学力を身につけます。全道各地や全国からも目的意識を持った生徒が集まり、ほとんどの学生が寮生活で協調性や自主性を育んでいます。

本視察にあたり、スキーコース・スキークラスは町立体育館での基礎体力作りの授業を、アウトドアコースのアウトドア探求クラスでは、生徒が関心を寄せ独自に研究し作成した自然環境に関する発表の様子を、同じく写真探求クラスでは生徒が撮影した写真展示や、小学校訪問で撮影した写真を大きな模造紙に組み込む作業の様子を見学できました。ご対応いただきました先生方に心より御礼申し上げます。2年生は修学旅行で不在ではありましたが、皆さん挨拶や元気に活動している姿がとても印象的でした。



📍 スキークラスのトレーニング授業の様子

📍 教室に展示されていた生徒の写真

*今回視察対応していただきました皆様です

日高町教育委員会	教育長	武田 啓嗣 氏
日高町教育委員会	生涯学習課長	佐々木 勇詞 氏
町立日高高校	主任教諭	船津先生
スキークラス	主幹教諭	福士先生
アウトドア探求クラス	同上	今先生
写真探求クラス	主事	島谷先生
日高町議会	議長	神保 一哉 氏
日高町議会	副議長	高橋 克徳 氏
日高町議会	委員長	梅木 聡 氏
日高町議会	事務局長	坪島 一成 氏



📍 日高高校エントランスで武田教育長（右から３番目）神保議長をはじめ皆様と

★今回の視察を一言の言葉で表現すると「百聞は一見にしかず」が的確である。一日で３コースの生の授業を参観することが先方の配慮で出来たことや、施設見学等や最近の受験者される生徒の受験の志望動機等記載されていない事柄も伺った。

*スキーは、体育館での夏場の基礎トレーニング

*アウトドアは 生徒各自の学習発表会（パワーポイントを各が作成）

*写真探求クラスは、近隣の幼稚園での文化祭で撮影した写真をアルバムや寄贈する写真番を作成する作業

各コースも１５分ずつでしたか、生徒の生の声を聞くことで、資料には記載されていない体験をすることが出来た。

- * 学校の設立や歴史、沿革概要等は頂いた資料を参照
- * 寮は最大で54名の収容人数であるが 各学年の定員を3学年最大20名まで。寮生の人数は15名が基本、道内の方も入寮されている。
- * 男女比率は6：4
- * 現在在籍生徒29名の出身地は16名が道外、13名道内
- * 高校の部活の中でスキーの専門高等学校と思われる。競技スキーではなくスキーの主たる活動は基礎スキー技術向上を目指している。
- * オリンピックの競技ではない。
- * 3年間で高校を卒業させて、大学受験・進学をできるとは、素晴らしいと思います。しかし、北海道の冬の厳しさは言うまでもなく、今回の季節では、真冬の体験をしないと私自身には少し不安の残る環境でもあると思いました。

記 荒井 直彦

★産業学習と連携して3年間で卒業できるユニークな夜間定時制高校。日高町立の日高高校。お昼は日高町産業学習として大自然に学び、夜は高校で学習。地域資源を生かしたスキークラス・写真探求クラス・アウトドア探求クラスの3クラスから選択する。各クラスの産業学習を見学することができました。

日高町産業学習とは、日高町教育委員会が主催し、日高町の自然豊かな地域資源を活用した様々な体験を通して、心身ともに健全な青少年の育成を目指す総合学習システムです。「日高町産業学習」の単位修得により夜間定時制の日高高校を3年間で卒業することができます。こんな高校に通ってみたかったです。また、葉山町内の児童生徒で興味があれば、日高高校を選択の1つにしてみても感じました。

記 土佐 洋子



👤 スキークラスの授業の説明を受ける 👤 学校案内のチラシ

★町立北海道日高高等学校（夜間定時制）で行われている日高町産業学習の単位取得により 3 年間で卒業可能というユニークな取組みについて視察いたしました。

「昼は大自然に学び 夜は高校で学ぶ」をコンセプトにカリキュラムが編成されていました。昼に行われる日高町産業学習は、日高町教育委員会が主催し、自然豊かな地域資源を活用した様々な体験により幅広い分野で活躍できる人材の育成を目指し、平成 2 年度より行われている事業です。現在は、2 コース 3 クラス制で実施しています。

① スキーコース

スキークラス：スキーの技術レベル等に応じた班編成による技術指導により、初心者から中級者は S A J 基礎スキー 1 級の取得を目指します。上級者は、S A J テクニカル・クラウンプライズ取得、Jr スキー技術選手権大会上位入賞を目指します。また、オフシーズンは日高の自然を活かしたトレーニングや各種スポーツなどによる体づくりに取り組みます。

② アウトドアコース

アウトドア探究クラス：日高の大自然を活かした体験的な学習活動を通じて、自然環境と共生する知識とアウトドア分野で活用できる実践力を学び、将来のアウトドアガイドの育成を目指します。併せて国立日高青少年自然の家と連携した体験活動を通して、将来を見据えたキャリア教育を学びます。

写真探求クラス：各種写真展参加などを目的とした写真（カメラ）の基礎的技術の習得やレンズを通して自然の魅力を探る中から豊かな感性を磨くことを目指します。併せて国立日高青少年の家と連携した体験活動を通して、将来を見据えたキャリア教育を学びます。

夜間定時制で行われている日高高等学校は、小人数クラスによるきめ細やかな指導により、学習ニーズや学習段階、各自の進路希望に合わせた指導が手厚く行われ、大学・専門学校を中心とした卒業後の進路実現が可能。「日高町産業学習」の単位取得により、3 年間で卒業が可能になります。現在の生徒数は、29 人（男子 20 ・女子 9）でスキークラス 12 人・アウトドア探究クラス 12 人・写真探求クラス 5 人です。

総合型選抜入試と普通入試の二段階で行っており、全国から生徒が来ております。町内在住生徒は、1 人でほとんどの生徒は、町が管理する寮で生活しています。完全個室で 1 日 3 食提供して寮費は、月額 45,000 円です。

特色がありユニークな仕組みの教育課程であり、充実した 3 年間で送れることから全国各地より目的意識を持った生徒が集まってくるそうです。

記 伊東 圭介

（３） 北海道白老郡白老町

（民族共生象徴空間）ウポポイについて ＊自主現地踏査

白老町は、ホームページを開くと「多文化共生のまち、白老」が真っ先に目に入ります。北海道の南西部、胆振総合振興局に位置し、太平洋を望む南部の沿岸地域から、「支笏湖洞爺国立公園」の一角を形成する山々が連なる北部地域まで、総面積425.64㎢の約75%を森林が占めている自然豊かなまちで、令和6年9月現在15,191人・9,192世帯が暮らしています。古くから先住民族アイヌの人々が暮らししており、独自の豊かな生活・文化を育んでまいりました。今回は自主視察として、2020年7月にアイヌ文化の復興・創造・発展のための拠点として、ポロト湖畔に開業した民族共生象徴空間「ウポポイ」を見学しました。

アイヌとはアイヌ語で「人間」を指す言葉で、人間の生活を支える自然などのカムイ「神」に対して、私たちは人間であるという意味だそうです。独自の言語・文化・歴史を有していましたが、1669年のシャクシャインの戦いをはじめ、クナシリ・メナシの戦いなどで、アイヌ人は松前藩に制圧されて、漁場労働での酷使や交易の不正に耐えることとなりました。とりわけ、明治新政府以降に蝦夷地は北海道と改称され、北海道開拓使らにより、コタン（集落）を追われ、言語や生活習慣を禁じられ和風化が進められました。

その後も厳しい制約の中で苦しい生活が続きましたが、1997年に「アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律」が施行され、母語であるアイヌ語や文化の継承が危機に瀕していることから、アイヌ文化の復興・創造との拠点として、また先住民族の尊厳を尊重し、差別のない多様性を認め合い共生社会を築いていくための象徴となるようウポポイは建設されました。

愛称の「ウポポイ」とはアイヌ語で「(おおぜいで) 歌うこと」を意味し、「国立アイヌ民族博物館」・「国立民族共生公園」・「慰霊施設」により構成されています。視察当日には、広島県から修学旅行で訪れていた高校生たちと、園内バスで同乗した際や博物館で見学している際に話す機会があり、高校での人権教育の一環として学生たちが真剣に学んでいたのが印象的でした。





👉 ウポポイの入場口にて

👉 アイヌ民族の民族衣装

★【ウポポイ（民族共生象徴空間）National Ainu Museum and Park】

ウポポイを初めて訪れることができました。今まで何度か訪れようとしたが、生憎、休館日でした。

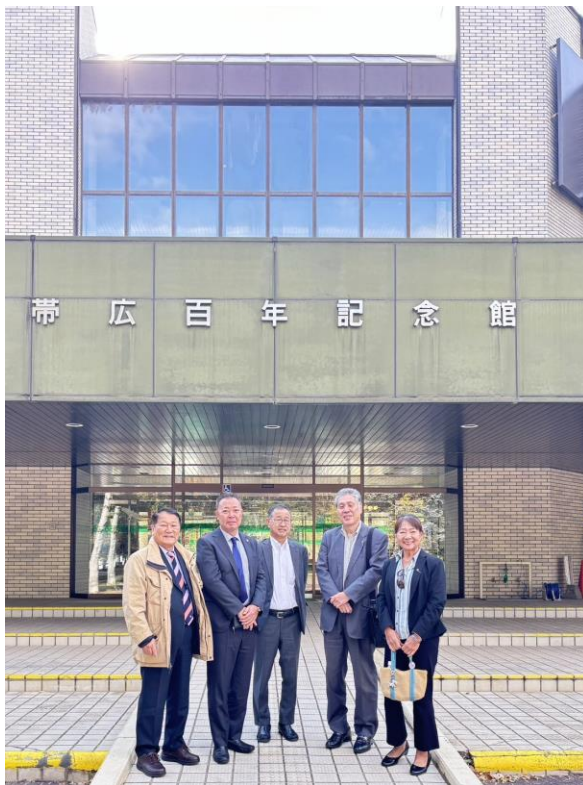
アイヌ文化の振興や普及啓発は伝承者の減少、アイヌ語や伝統工芸など存立の危機にある分野の存在、また、未だなおアイヌの歴史や文化等について十分な理解が得られていないという課題に直面している。このような背景を踏まえ、民族共生象徴空間はアイヌの人々が先住民族であるとの認識に基づきアイヌ政策の「扇の要」として提言された。

ウポポイ（民族共生象徴空間）はアイヌ文化を振興するための空間や施設であるだけではなく、我が国の貴重な文化でありながら存立の危機にあるアイヌ文化の復興・創造等の拠点として、また、将来に向けて先住民族の尊厳を尊重し、差別のない多様で豊かな文化を持つ活力ある社会を築いていくための象徴として、位置づけられている。時間がなく大急ぎの見学でしたが、もっとゆっくりとじっくり見学したかったです。

記 土佐 洋子

(4) その他視察 北海道帯広市 「帯広百年記念館」＊自主現地踏査

宿泊先に選んだ帯広市は「十勝の中核都市」として発展しております。日本の食糧基地と言われるほど、大地の恵みが豊かで、街中には地産地消を推進する飲食店も多く、食の街でもあります。北海道遺産に認定されている「ばんえい競馬」も有名で、観光スポットも豊富で再訪したいと思えるまちです。行政面積は東京23区とほぼ同じくらいの619.34㎢で、令和6年9月末現在で161,288人、90,502世帯が暮らしております。



♪ 帯広百年記念館の入口にて



♪ 紀元前の展示物等もありました

日高高校の視察開始時間までに余裕がありましたので、18日午前中に急遽宿泊ホテルを早めに出発して、美術館や動物園など文化・観光施設が集約された地域にある「帯広百年記念館」にて自主現地踏査を行いました。帯広百年記念館は、明治16年に晩成社が入植して開拓の先駆けとなった資料が展示されており、晩成社の開拓者は伊豆の松崎から来たとのことで興味深く資料を読みました。

その他にも、十勝の自然や約3万年前に十勝に住み始めた、旧石器時代から縄文時代などの先住の人々の暮らしや、十勝のアイヌ文化のコーナーなど、帯広の歴史と暮らしと生活文化がよく理解できる素敵な施設でした。葉山ではこのような歴史資料館がないことが残念で仕方ありません。

